

荻町城跡

荻町に初めて合掌造りの家が建てられた何百年も前の 15 世紀から 16 世紀にかけて、この村とその周辺は、武将の内ヶ島氏が支配していました。内ヶ島氏は、荻町の南にある帰雲城に本拠地を置き、庄川沿いに山城を次々と築き、敵対する一族の侵入から領地を守りました。その中のひとつが荻町城で、現在の荻町城址展望台のある丘の尾根に沿って築かれた石垣、空堀や堤防を中心に構成されていたと考えられています。この城の守備兵らは、山下氏勝（1568-1653）という内ヶ島氏の家臣が指揮していました。1585 年には、地震で帰雲城が破壊されたとされ、内ヶ島家に致命的な打撃をもたらしまし、山下氏勝は別の主人に仕えることを選び、荻町を捨て、彼の砦は廃墟と化しました。今日では要塞の一部だけが残っています。